

趣意書

阪神淡路大震災から 25 年、東日本大震災から 9 年です。毎年のように全国各地で災害による被害が続いています。それに伴い、全国各地で災害ボランティアとして多くの団体、また個人が被災地支援に尽力されています。

災害による被害が大きくなればなるほど、災害が広い範囲に及べば及ぶほど、被災した地域のみだけでは対応が難しくなります。そのようなとき、被災地外部からの災害ボランティアなどの支援が必要になります。

また、被災地の支援ニーズは災害の種類や時期によって変わってきます。例えば、東日本大震災の被災地では、初期段階においては、がれきの撤去や分別、泥だしなどの力仕事を中心としたボランティア活動が実施されてきました。その後、時間が経つにつれ、ボランティアセンターでの運営の手伝い、イベントやサロン活動の支援など、人と人とのつながりを大切にした活動が求められるようになりました。

地域の防災力を高めるためには、地域全体で取り組む防災対策や、地域の人と人とのつながりや支えが重要であることは言うまでもありませんが、外部の人たちの支援を受け入れや、新しいつながり・絆の創出や全国的なネットワークを持つ団体の支援を得たりするなど、復旧・復興の力を幅広く、そして重層的に高めていくことも、地域の防災力を高めることにつながります。

例えば、避難所生活は長期化すればするほど、生活の一部になります。各団体が実施している平時の活動が、そのまま被災地の方々の日常を取り戻す一助となります。災害ボランティア活動を特別なことだと捉えず、団体の活動やつよみを生かし、被災者支援を担うことができます。

「災害 TASUKEAI リスト集」は被災者と支援者を結ぶ、はじめの一歩です。

これまでの災害の教訓をもとに、今後は外部からの有効な支援を十分に活用できる体制づくりが必要であり、この「災害 TASUKEAI リスト集」が『支援者』と『被災地（被災者）』をつなぐ一役を担えることを目的とし作成いたしました。（2020年3月30日 男女共同参画地域みらいねっと）

